

## 第2学年 国語科学習指導案

日時 平成20年10月16日(木)5校時  
児童 男子7名 女子9名 計16名  
指導者 村松 淑子

- 1 単元名 だいじなところに気をつけて読もう
- 2 教材名 サンゴの海の生きものたち(光村図書 2年上)  
補助教材名 「大自然のふしぎ 魚・貝の生態図鑑」「さんご礁と海の生き物たち」他
- 3 単元について

### (1) 児童について

児童はこれまでに、2年上「じゅんじょに気をつけてよもう・たんぼぼのちえ」で説明文を読む経験をしてきている。「たんぼぼのちえ」では、時間や事柄の順序、たんぼぼの様子と知恵、その理由について語や文に着目し考えながら内容の大体を読み取る学習をしてきている。また、「じゅんじょに気をつけてよもう」の単元の最後には「たんぼぼはかせクイズ大会」をし、読み取ったことを活用し答える言語活動を行った。

これらの学習を通して、児童は挿し絵を手がかりに説明文を読むことにより、未知のことを知る喜びを味わうこと、語や文としてのまとまりを考えながら声に出して読むことができるようになってきている。また、文章を読む際に、視点を持って読み取ろうとしたり、読み取ったことを活用して表現しようしたりする態度は、育ってきている。しかし、内容を読み取る力や表現力については個人差が大きく、一つ一つの文の意味が分かって文と文のつながりを考えたり、その中でも重要な語句に着目しながら読み取ったりする力、読み取ったことを活用する力はまだ十分とはいえない。

また、本校の国語科アンケート結果によると、「国語がとても好き」と答えた児童は10人、「まあまあ好き」と答えた児童は4人で国語を好む児童が多く見られる。好きな理由としては、「自分が書いたものを発表できるから」「読むのが楽しいから」「劇やクイズ、スピーチなどいろいろな勉強をするから」などがあげられた。しかし、「あまり好きでない」「きらい」と答えた児童も1人ずつ見られる。理由としては、「文を読むのがいやだから」「難しいから」であった。したがって、文を読むことに対する抵抗感を軽減し、一人一人の知的好奇心をかき立て生き物に関する読み物に興味をもち、楽しんで読書しようとしたり調べたことをまとめたりできるように、読む目的を明確にし単元を通して目標に迫れるように言語活動を工夫していく必要があると考える。

### (2) 教材について

小学校学習指導要領における低学年「C読むこと」の領域の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しみながら読書しようとする態度を育てる。」である。また、指導内容は、「ア、易しい読み物に興味を持って読むこと。」「イ、時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」「ウ、場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと。」「エ、語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと。」である。

本単元は、海の生き物たちがどのようにかかわり合っているのかを読み取り、共生の仕組みの不思議に興味をもつことを主なねらいとしている。

本教材は、サンゴのきれいな海の中で生き物たちが共生していることが書かれた説明文である。本校の児童にとって、日頃目にすることのない海の中の生き物たちであるが、教材文に美しい写真が掲載されていること、イソギンチャクが既習の「スイミー」で登場したこと、物語「ニモ」でクマノミが主人公となっていることから、多くの児童は興味をもって読み進めることができると考える。本教材は、10の形式段落に分かれており、「話題提示ー具体例1ー具体例2ーまとめ」という四つのまとまりから構成されている。「話題提示」では「どんな生きものたちが、どんなかかわり合いをしているのでしょうか」と問いかけの文が示され、「具体例1」では、イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを、「具体例2」では、ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを紹介し、「まとめ」で話題に対する結論を示している。これまで読んできた説明文と比べると、登場する生き物の数が多く、説明がやや複雑になっているが、問いかけの文に着目し答えを見つけながら読むことによって、大事なことに気をつけながら内容の大体を読み取ることができると考える。

このように、本教材は、問いかけの文に着目し、「どんな生きものたちが」「どんなかかわり合いをしているのか」という視点で問いかけの文の答えを見つけながら読むことによって、事柄の順序を考えながら大事なことに気をつけて内容の大体を読み取る力を育てるのに適した教材と考える。

### (3) 指導にあたって

本単元の指導にあたって、つかむ段階では、拡大した写真を見せることにより海の中のイメージを広げ、サンゴの海の生き物に興味を持たせる。また、教材文を読んで初めて知ったことや不思議に思ったこと、おもしろいと思ったところを発表し合う活動を通して、「どんな生きものたちが」「どんなかかわり合いをしているのか」読み取り解決したいという意欲をもたせる。さらに、関連図書を用意することで、主教材に登場してくる生き物以外の海の生き物についても調べ、「海の生きものずかん」を作り紹介し合いたいという目的意識と読書への意欲をもたせる。

次に、たしかめる段階では、主教材で写真と文章を結び付けながら、登場してくる生き物の特徴とかかわり合いや、おおまかな文章の構成を読み取らせる。そのために、音読のさせ方を工夫し、生き物の特徴とかかわり合いの内容をつかませる。また、視点（気をつけること）をはっきりとさせサイドラインを引きながら読ませることで重要な語句や文に着目できるようにさせ、ワークシートにまとめることで読み取ったことの定着を図る。そして、登場してくる生き物の言葉をふきだしに書いたり、動作化したりさせることで、かかわり合いについてイメージ化させ読み取ったことをより確かにさせる。さらに、事柄の順序をおさえて読み取る力をつけさせるために、形式段落や4つの大きなまとまりに分け、おおまかな文章構成をつかませ、説明文の組み立てにも興味をもって読めるようにさせる。

最後に、ひろめる段階では、読書活動につなげるためにそれまでの学習で読み取ったことを振り返り、読みの視点（気をつけること）とキーワードの言葉（大事な言葉）を手がかりに補助教材を読み比べさせる。そして、「海の生きものたち」に関連のある本の並行読書（ブックウォーク）の取り組みを通して読んできた本の中から、キーワードの言葉をもとに「海の生きものずかん」のカードを作るもとなる本を探して読ませる。そこから必要な情報を取り出して読んだ内容を自分なりにまとめ「海の生きものずかん」のカードを作ることができるようさせる。

このような、三段階の単元を組み、段階を追った言語活動を通して読ませることで、低学年においても「習得した知識や技能を活用して、事柄の順序を考えながら大事なことに気をつけて読み取る力」を育てていきたいと考える。

## 4 単元の目標及び評価規準

### (1) 単元の目標

- ◎海の生き物についての読み物に興味を持ち、かかわり合いを読み取ったり他の本を読んだりしている。  
(国語への関心・意欲・態度)
- ◎「サンゴの海の生きものたち」が互いに役に立っていることを、事柄の順序を考えながら大事なことに気をつけて読むことができる。  
(読むこと・イ)
- 語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読む。(読むこと・エ)
- 片仮名を読んだり書いたりし、片仮名で書く語を文や文章の中で使うことができる。(言イ(ア))

### (2) 評価規準

関心・意欲・態度	読むこと	言語事項
海の生き物たちの特徴やかかわり合いに興味を持ち、教材文やその他の海の生き物に関連する本を読もうとしている。	事柄の順序を考えながら、大事なことに気をつけて内容の大体を読み取っている。(イ) 語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読んでいる。(エ)	片仮名で書く海の生き物たちの名前を読んだり書いたりしながら、文や文章の中で使うことができる。 (言イ(ア))

5 指導と評価の計画（指導時数 11 時間）

段階	時間	おもな学習活動	評価規準（おおむね満足できる状況）
一次 つ か む	2	1 全文を読み、学習のめあてをもつ。 (1)・「サンゴの海の生きものたち」の全文の範読を聞き、初発の感想を書き、交流する。 ・「海の生きものずかん」を作るといふ単元のめあてをもつ *並行読書（ブックウォーク）開始 (2)・全文を音読し、文章を形式段落やまとまりに分ける。 ・学習計画を立てる。 ・新出漢字・語句の確認をする。 *読みの視点（「どんな生きものたち」「どんなかかわり合い」）	<b>関</b> 興味を持って読み、初めて知ったことや不思議に思ったことなど感想を書いたり、発表したりしている。 [ノート・発言] <b>読</b> 文章を形式段落や4つのまとまりに分け、学習計画を考えている。 [発言・観察]
二次 た し か め る	5	2 「海の生きものずかん」を作るために、登場してくる生き物の特徴とかかわり合いを読み取る。 (1) イソギンチャクとクマノミの特徴を読み取り、まとめる。 (2) イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取り、まとめる。  (3) ホンソメワケベラの特徴を読み取り、まとめる。 (4) ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを読み取り、まとめる。  (5) 第十段落を読み、文章の組み立てを考える。	<b>読</b> イソギンチャクとクマノミの特徴を読み取り、大事な言葉を落とさずにまとめている。[発言・ワークシート] <b>読</b> イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取り、ふきだしに書いたり、動作化したりしている。 [観察・ワークシート] <b>読</b> ホンソメワケベラの特徴を読み取り、大事な言葉を落とさずにまとめている。 [発言・ワークシート] <b>読</b> ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを読み取り、ふきだしに書いたり、動作化したりしている。 [観察・ワークシート] <b>読</b> 第十段落を読み、文章の組み立てを考えおおまかな文章を構成を理解している。[発言・観察・ワークシート]
三次 ひ ろ め る	4 本時	3 読み取ったことを活用し、「海の生きものずかん」を作る。 (1) 補助教材を読み比べ、主教材と同じかかわり合いの読み物を探す。 (2) 海の生き物の本を探して読む。 (3) 読み取ったことを絵と文にまとめる。 (4) 自分が書いたカードを紹介し合い、感想を交流する。	<b>読</b> 同じかかわり合いの根拠となる文や語句をさがし、答えの予想があっていたかどうか考えようとしている。 [発言・観察・ワークシート] <b>読</b> キーワードの言葉をもとに海の生き物の本を探して読んでいる。 [観察] <b>書</b> 読み取ったことをわかりやすく絵と文にまとめている。 [カード] <b>関</b> 友達が書いた事柄を聞き、感想を交流しようとしている。[観察・発言]

6 本時の指導

(1) 本時の目標

【読むこと】他の、海の生き物たちの様子を読み比べ、かかわり合いの有無を指摘することができる。

(2) 授業仮説

○仮説1 『音読や書く活動を通して語句や表現に着目した指導をする。』に関わって  
第二次での読み取りの仕方を活用し、答えの根拠となる文や語句をさがしながら読み、サイドラインを引くことで重要な語句や文に気づかせるとともに、同じかかわり合いのキーワード（大事な言葉）に着目させることによって、答えの予想があっていたかどうか考えることができるであろう。

○仮説2 『単元における読む目的を明確にした学習活動をする。』に関わって  
補助教材を使って第二次で読み取った内容や読み取りの仕方を活用し、課題を解決する言語活動を通して、習得したことをより確かなものにするるとともに、他の海の生き物についての読み物に興味をもち、次の読書活動につなげることができるであろう。【活用2、3】

(3) 展開

段階	学習内容とおもな学習活動	<p style="text-align: center;">・ 教師の支援</p> <p style="text-align: center;">----- 仮説に関わる主な支援 -----</p> <p style="text-align: right;">[評] 評価</p>
つかむ	<p>1 学習のめあてを確認し、前時の学習想起する。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>「サンゴの海の生きものたち」と同じかかわり合いをさがそう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の最後に「海の生きものずかん」を作るという学習のめあてに向って、教材文を読み取ってきたことを確認する。</li> <li>教材文は4つの大きなまとまりで書かれていたこと、読みの視点（気をつけること）とかかわり合いの例、キーワード（大事な言葉）を想起させる。</li> <li>補助教材に登場する海の他の生き物たちの名前と写真を提示し興味・関心を持たせ、他の、海の生き物に関連する読み物を読みたいという意欲化を図る。</li> <li>本時の学習課題を一斉読し、課題をつかませる。</li> <li>同じかかわり合いのキーワードを確認させる。</li> <li>[評] 他の、海の生き物についての読み物に興味・関心を持ち、課題をとらえているか。（表情・態度）</li> </ul>
たしめる	<p>3 補助教材の範読を聞き、同じかかわり合いと思う読み物を選ぶ。</p> <p>4 補助教材を読み、課題をについて一人で調べ、答えの予想があっているか確かめる。</p> <p>(1) 補助教材を黙読する。</p> <p>(2) 答えの根拠となる文や語句にサイドラインを引く。</p> <p>(3) 答えの予想があっていたかどうか考え、判断する。</p> <p>5 課題について読み取ったことを全体で確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助教材を読み聞かせることにより、内容の大体をつかませワークシートに答えの予想を書かせる。</li> <li>学習の仕方を明確にし、理解させる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">----- 仮説1・2に関わる主な支援 -----</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>答えの予想をし、その根拠となる文や語句をさがしながら読み、サイドラインを引くことで重要な語句や文に気づかせるとともに、同じかかわり合いのキーワード（大事な言葉）に着目させ、答えの予想があっていたかどうか考え、判断することができるようにさせる。</p> </div> <p>[評]</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>&lt;おおむね満足できる状況B&gt;</p> <p>同じかかわり合いの根拠となる文や語句をさがし、答えの予想があっていたかどうか考え、判断することができる。</p> <p>○Cの児童への支援</p> <p>主教材の読みの視点（気をつけること）に立ち戻り、同じかかわり合いのキーワード『たがいに役に立っている』に着目させ、答えを考えさせる。（観察・ワークシート）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>答えの予想があっているか確かめ終わった児童には、ワークシートに答えのわけを書かせる。</li> <li>同じかかわり合いをしているのはどれか、そのわけ（根拠）をキーワード（大事な言葉）と照らし合わせながら、確認し課題を解決させる。</li> </ul>
まとめる	<p>6 本時の学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習を振り返り、読み比べをしての感想を書き、発表し合う。</li> </ul> <p>7 次時の予告をきく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のめあてを振り返らせ、補助教材を読み比べての感想をワークシートに書かせる。</li> <li>[評] 他の、海の生き物の中にも同じようなかかわり合いをしている物がある事やその他に分かったことなど感想をワークシートに書くことができたか。（ワークシート・発言）</li> <li>次時は、キーワード（大事な言葉）をもとに海の生き物の本を探して読むことを知らせる。</li> </ul>

## 第二学年 教材分析表

単元名 だいじなところに気をつけて読もう

教材名 サンゴの海の生きものたち

要旨 サンゴの海には、お互いに役に立つようにかかわり合って暮らしている生き物たちがいる。インギンチャクとクマノミは、互いに護り合って暮らしているし、ホンソメワケベラは、大きな魚についていた虫を掃除するが、その虫が食べ物になっている。自然の世界では、異なる種類同士であっても、お互いに助け合って暮らしている。

構成		話題提示									
小見出し		① サンゴの海には、お互いに役に立つようにかかわり合っている。② 生き物たちのかかわり合いを見てみよう③ インギンチャクとクマノミは、いつしよに暮らしている。④ インギンチャクとクマノミの体の仕組み。⑤ クマノミがインギンチャクに守ってもらう様子。⑥ インギンチャクがクマノミに守ってもらう様子。⑦ ホンソメワケベラの特徴。⑧ 大きな魚がホンソメワケベラに掃除をしてもらう様子。⑨ ホンソメワケベラが掃除した虫は食べ物になる。⑩ サンゴの海では、生き物たちがお互いに役に立つようにかかわり合って暮らしている。									
段落		要 点									
着目させたい語句(・)と言語事項(○)											
まとめ	具体例2	具体例1				話題提示					
てつか立互物でサンゴの海	かきケホン わなベン り魚ラソ 合いのと し合いか大	わりヤイン ノソギン ミのクマ 合いかマ いカチ				うをかついにサン を見わよには、 てりう役に、 み合ににお互 よいか立海					
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①		
サンゴの海では、生き物たちがお互いに役に立つようにかかわり合って暮らしている。	ホンソメワケベラが掃除した虫は食べ物になる。	大きな魚がホンソメワケベラに掃除をしてもらう様子。	ホンソメワケベラの特徴。	インギンチャクがクマノミに守ってもらう様子。	クマノミがインギンチャクに守ってもらう様子。	インギンチャクとクマノミの体の仕組み。	インギンチャクとクマノミは、いつしよに暮らしている。	生き物たちのかかわり合いを見てみよう	サンゴの海には、お互いに役に立つようにかかわり合っている。		
○このように、かかわり合って	○このように、かかわり合って	○大きな魚でもありません。○さうじ魚です。○その虫が食べ物	○ホンソメワケベラ	○おいはらう	○これが、ひみつです。	○でもありません。	○どくの手	○インギンチャク	○役がわり合っている。	○サンゴ	

### 文章構造



はじめ

中

おわり

板書計画

サンゴの海の生きものたち

めあて

サンゴの海の生きものたちと同じように、  
たがいにかかり合っているものをさがそう。

◎気をつけること

- ・どんな生きものたち？
- ・どのようなようにかかり合っている？

◎だいじなことば

たがいに

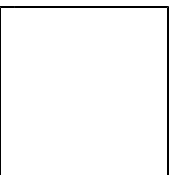
かかり合っている

どちらも

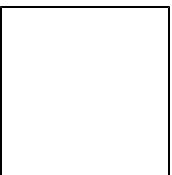
- やくに立つように
- ・まもり合って
- ・たすけ合って

海のほかのいきものたち

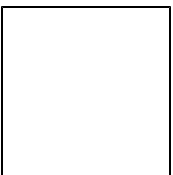
1 テップウエビとハゼ



2 カクレウオとナマコ



3 アカスジモエビと大きな魚



まとめ

# サンゴの海の生きものたち

ワークシート

名前

めあて

サンゴの海の生きものたちと、  
同じかかわりをさがそう。

海のほかのいきものたち

1 テッポウエビとダテハゼ

○か×



わけ

2 カクレウオとナマコ

○か×



わけ

3 アカスジモエビと大きな魚

○か×



わけ

まとめ

☆同じかかわりをしているのは、

○かんそう

わかったこと  
思ったこと